

- アイサワ工業(株)大阪支店
- 青木あすなろ建設(株)大阪本店
- あおみ建設(株)大阪支店
- (株)浅川組
- (株)浅沼組
- (株)新井組
- (株)安藤・間大阪支店
- 岩田地崎建設(株)大阪支店
- 大木建設(株)大阪支店
- (株)大林組大阪本店
- 大林道路(株)大阪支店
- (株)大本組大阪支店
- (株)奥村組西日本支社 関西支店
- 奥村組土木興業(株)
- オリエンタル白石(株)大阪支店
- 鹿島建設(株)関西支店
- 株木建設(株)大阪支店
- 北野建設(株)大阪支店
- (株)クボタ建設大阪支社
- (株)熊谷組関西支店
- 広成建設(株)大阪支店
- (株)鴻池組
- 五洋建設(株)大阪支店
- 佐藤工業(株)大阪支店
- 清水建設(株)関西支店
- ショーボンド建設(株)近畿圏支社
- 西武建設(株)関西支店
- (株)銭高組
- 大木建設(株)大阪本店
- 大成建設(株)関西支店
- 大成ロテック(株)関西支社
- 大鉄工業(株)
- 大日本土木(株)西日本支社
- 大豊建設(株)大阪支店
- 高松建設(株)
- (株)竹中工務店
- (株)竹中土木大阪本店
- 鉄建建設(株)大阪支店
- 東亜建設工業(株)大阪支店
- 東急建設(株)関西支店
- 東洋建設(株)大阪支店
- 戸田建設(株)大阪支店
- 飛鳥建設(株)大阪支店
- 奈良建設(株)大阪支店
- 南海辰村建設(株)
- 西松建設(株)西日本支社
- 日特建設(株)大阪支店
- (株)NIPPO関西支店
- 日本国土開発(株)大阪支店
- (株)ノバック
- (株)長谷工コーポレーション関西
- (株)ハンシン建設
- (株)ピーエス三菱大阪支店
- (株)久本組
- 深田サルベージ建設(株)大阪支社
- (株)福田組大阪支店
- (株)藤木工務店
- (株)フジタ西日本支社 大阪支店
- (株)不動テトラ大阪支店
- (株)本間組関西支店
- 前田建設工業(株)関西支店
- 松井建設(株)大阪支店
- (株)松村組大阪本店
- 丸磯建設(株)関西支店
- 三井住友建設(株)大阪支店
- みらい建設工業(株)大阪支店
- 村本建設(株)
- 名工建設(株)大阪支店
- (株)森組
- (株)森本組大阪支店
- 矢作建設工業(株)西日本支社
- (株)吉田組
- 寄神建設(株)関西支店
- ライト工業(株)西日本支社
- りんかい日産建設(株)大阪支店
- 若築建設(株)大阪支店

editor's voice
2022.November

編集後記

今年も、年初より新型コロナウイルスのオミクロン株による感染が拡大し、さらにロシアによるウクライナへの侵攻や、安倍元総理が凶弾に倒れるなど、改めて平和について考えさせられる一年となりました。一方、北京冬季オリンピックでの日本人選手の活躍や、大谷翔平選手が104年ぶりにメーブルースの記録に並ぶなどのニュースに勇気づけられる一年でもありました。

巻頭対談では、大阪公立大学大学院教授の嘉名光市氏をお招きし、日建連関西支部副支部長の北岡隆司氏と、万博を契機に大阪の街はどう変貌を遂げていくかについて語り合っていました。

レポート最前線では、うめきたに新しく開業され、関西国際空港などのアクセス及びネットワーク強化が期待されている、JR大阪地下新駅の進捗についてレポートしました。

しびるWalkerでは、日本初民間ロケット発射場の地となる和歌山・串本町を訪れ、その盛り上がりや気運づくりについて取材しました。

また、Landmarkでは北大阪急行線延伸事業と並行して進められている箕面船場阪大前駅前開発事業とまちづくりについて、箕面市北急まちづくり推進室を訪ね、全国初となる大学図書館機能を併せ持った市立図書館や、文化芸術劇場などを、案内いただき、北大阪エリア全体の活性化への大きな期待を感じることができました。

新型コロナウイルスが一刻も早く収束に向かい、世界に平和が訪れ、大阪関西万博が世界中から来た多くの人々を賑わう未来を願って止みません。

最後に、本誌の発刊に際し、快く取材への協力を賜りました関係各位のご厚意に心より感謝申し上げます。

「しびる」について、あなたのご意見、ご感想をお聞かせください。

〒540-0031

大阪市中央区北浜東1-30 大阪建設会館内

(一社)日本建設業連合会 関西支部 ご意見・ご感想係

送り先



●今号の表紙

潮岬灯台(2022年8月撮影)

紀伊半島南端(本州最南端)に建つ白亜の灯台。明治初期に建設された洋式灯台の一つ。明治6年(1873年)の初点灯以来150年にわたる歴史を持っている。日本の灯台50選にも選ばれている。

※しびるの既刊号については、こちらをご覧ください。→



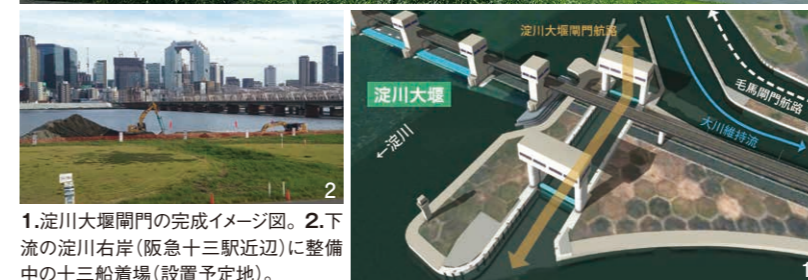
1,300年の時を経て
平城宮跡歴史公園内に大極門(南門)が完成。

3月19日、奈良市の平城宮跡歴史公園内に、第一次大極殿院の大極門(南門)が復原された。大極門は第一次大極殿院の正門にあたり、入母屋造(いりもやづくり)の二重門。間口約22m、奥行き約9m、高さ約20mと南側の朱雀門よりやや小さい。第一次大極殿院は律令国家の始まる約1,300年前の奈良時代、国家の重要な儀式が開かれた空間だ。大極殿を中心に回廊で囲まれ、朝賀などで天皇が大極殿にいる時は貴族が整列したという。2017年秋に着工し、宮大工や瓦職人、左官らが当時の伝統的技術を生かして作り上げた。今年4月、大極門の東側にある東楼の復原工事(2025年完成予定)に着手、西楼や回廊の復原も予定されている。総面積132haに及ぶ広大な敷地にある平城宮跡歴史公園は、1300年の時を経て、壮大な歴史ロマンと共に訪れる人を魅了し続けている。



1.東楼・西楼とともに第一次大極殿を囲う回廊の復原も計画されている。2.素屋根に覆われた大極門隣りでは、「東楼」の復原工事が始まっている。

淀川舟運の復活に向け、
淀川大堰閘門と十三船着場の整備工事がスタート。



1.淀川大堰閘門の完成イメージ図。2.下流の淀川右岸(阪急十三駅近辺)に整備中の十三船着場(設置予定地)。

閘門とは

水位が異なる水面の河川や運河などで、船を通航させるための施設。上下流側それぞれに門扉を設け、閘室内で水位を調整し船を通航させるしくみで、パナマ運河が代表例。

淀川の舟運は、古くは豊臣秀吉が開いた京都伏見と大阪を結ぶ三十石船による人や物資の運搬の歴史に始まる。2021年度、舟運機能の復活と資材の運搬強化に向けて、上下流の行き来が分断されている淀川大堰に新たに閘門を設け船舶航行を実現する整備事業を開始した。閘門は水位差のある水面間で航行するために必要で、淀川大堰閘門の完成により上流から大阪湾までの航行が可能になる。2025年万博開催時には新たな観光コンテンツとして、淀川上流～夢洲を結ぶ「淀川舟運」の復活も計画されている。大阪市・十三エリアの魅力アップのため、淀川右岸(阪急十三駅近辺)に新たに船着場の整備も始まった。賑わいのある淀川の水辺空間づくり、水上交通の強化に加え、災害対策にも大いに活用が期待されている。